

人権センターだより

電話 82-0076

ファクス 82-0110

Vol. 146



第10回ふれあい人権講座

「ノミンの歌のコンサート」

「ちょっと多様性・ちょっと人権」

ふれあい人権講座としては何年かぶりになる人権コンサートを開きました。モンゴル出身の町の交流支援員ノミンさんが歌うことが大好き、とのことで企画しました。モンゴルの歌、モンゴルで、またインドネシアで流行した日本の歌、ロシアから輸入されて日本でも流行した歌などを聴きながら、それぞれの歌の背景にある多様性のこと、人権に関係することをお話しました。お互いの国境を越えて愛される歌がたくさんあることは、音楽の持つ力だと思えます。

「竹田の子守唄」も歌ってもら

いました。フォークソングとして大ヒットした後、部落差別に関係する背景を持つとして一時、放送自粛されました。この歌がどのように扱われて来たのかは、部落差別という人権課題を取り巻く社会の変遷を象徴しているように思えます。また、幼い少女が親元を離れ奉公に出されて、守子として働く。その辛さを歌った労働歌でもあります。「子どもの人権」の観点からも聴き直してみてください。



▲手作り感いっぱいコンサート。
ギターは中島宏二さん。

【参加された方の感想から】

・とても素敵なコンサートをありがとうございました。音楽はやはりいいですね。人権についても色々考えることができ、よい時間でした。全て身近な問題だと改めて感じました。

令和3年度 第1回ふれあい人権講座

「部落差別のない 社会をめざして」

時代が移り世代が代わり、部落差別問題への関心は一般的には薄らいできたように感じています。平成14年の同和対策特別措置法の失効を契機に学校教育でもこの問題にふれる機会は減っています。

しかし、今もネット社会を中心に偏見と差別が脈々と継承されています。この状況下、今回は部落差別の起源から現在の状況、解消への取り組みの全体像を見渡す内容でお話しました。「寝た子を起こすな」というご意見を長らくいただくのですが、世の中には悪意を持つ方もいます。何も知らないままデマを刷り込まれてしまうのはとても危険なことです。歴史的経緯も含めた知識を持つことは、人権感覚を磨くために必要です。「日本固有の差別」と言われることもありますが、世界中の人権課題と通底していて、世界の実相を知る上でも意味あることと考えています。

【次回予告】

第2回ふれあい人権講座

「カンパニユラの夢」

DVDドラマ鑑賞

日時 5月11日(火)

午後6時～7時30分

会場 日南町人権センター

超高齢社会とひきこもり・8050問題（1180歳代の親と50歳代の子との世帯に起こりやすい課題）がテーマです。36分のドラマを鑑賞して皆さんと考えます。事前のお申し込みは不要です。



▲社会構造の変化が地域共生社会の実現を求めています。

5月の人権相談・行政相談

日時 5月7日(金)

午前9時～12時

会場 子育て支援センター

☆予約は不要で秘密は固く守られます。お気軽にお越しください。

